特集3

～愛知県渥美地域の産地紹介～

スイートコーン「ピュアホワイト」を栽培して

ＪＡ愛知みなみ
トンネルスイートコーン
出荷連合

地域の概要

渥美半島は愛知県の南にあり、北は三河湾、南は太平洋に面しており、伊良湖水道を挟んで志摩半島と対峙しています。渥美半島の中央部を東西に標高約200mの赤石山系の延長部が貫き、これらを境に太平洋側と三河湾側に区分されています。地質は第４紀古層に属し、洪積台地が多く、砂壌土・壌土・植壌土・植土が散在していて、耕地は一般に酸性が強く有機質に乏しい土地柄です。気候は、直接外洋に面しているため潮風による塩害を受けやすい反面、暖流の影響で1年を通して温暖で、年間の平均気温は15.8℃、降水量は1700ｍｍ前後です。

このように気候に恵まれており農業が盛んで、菊・キャベツ・ブロッコリー・トマト・とうもろこしなどを生産しています。

今でこそ全国有数の農業地帯になっていますが、昔は水源の確保が困難で農業が向かない土地でした。しかし昭和43年に豊川用水（かんがい用水）の開水によって水源が確保できるようになり、農産物の栽培面積が飛躍的に増加して発展を遂げてきました。

渥美半島のスイートコーン栽培

田原市全体での農業耕作面積は6,390haで、夏作の約200ha程がスイートコーン栽培地帯になります。作型はトンネル移植栽培（２月上旬～中旬播種、５月下旬～６月上旬収穫）、トンネル直播栽培（２月中旬～３月中旬播種、６月収穫）、マルチ直播栽培（３月中旬～４月播種、６月下旬～７月中旬収穫）で、畝間138ｃｍ×株間30～33ｃｍの2条植えで10a当たり約4800株です。

ピュアホワイトを導入した経緯

トンネル栽培では他産地の端境期に当たることもあり、高値が期待できますが、最盛期の６月下旬以降の単価は半値以下まで下がることが多く、この時期に単価が高くなるような差別化できる品種はないものかと頭を悩ませていました。

そんな時、種苗会社から「差別化を図るなら白色種のスイートコーンを作ってみませんか。」と持ちかけられ、本品種“ピュアホワイト”の試験栽培が始まりました。試験的に導入したところ、非常に好評で、高値で販売できたことから、本格的な栽培に取り組み始めました。

JA愛知みなみトンネルスイートコーン出荷連合の皆さん

栽培管理について

ピュアホワイトは黄色種が安くなる６月下旬に出荷できるように、３月中旬まきのマルチ栽培を主体としています。発芽率は黄色種と同程度であるため、２粒封入のシードテープで播種します。栽植密度は黄色種と同じく、畝幅138cm、株間33cmの２条まきとします。その他栽培管理は黄色種と同様に行いますが、吸肥力が強い品種であるため、追肥の回数を１回増やし、施肥量をやや多めにします。

栽培した感想、気をつけていること

ピュアホワイトを栽培して今年で２年目になりますが、発芽は良好で生育の揃いもよく、作りやすい品種という印象です。また、実はやや細く小ぶりですが、先端不稔が少なく、粒の揃いも良く、秀品率が高いのが特徴です。果皮が軟らかく、甘味も強いことから、市場の評価も良好です。しかし、果皮が軟らかいために日持ち性がやや劣るため、収穫後の温度管理にはとくに気を配っています。

ピュアホワイトを栽培する上で最も気をつけることは、キセニア対策です。渥美半島では黄色種のスイートコーンが多く栽培されているため、花粉がかからないよう、周囲にスイートコーンがないか、離れているような圃場を選定しなければなりません。そのため、出荷できる量には限りがあります。しかし、消費者のニーズに応えるためには随時出荷していくことが必要であるため、は種時期を少しずつずらしたりして、安定して出荷できるように努力しています。

また、粒が白いため黄色種に比べて収穫適期の判定が難しい品種です。試し取りをして、先端まで白くなってきたころを目安にして収穫しています。

さいごに

白いトウモロコシが徐々に浸透してきており、今後需要が拡大することが期待できる品種であるため、作付けの時期や出荷量など、消費者のニーズに応えられるような生産に努めていきたいと思っています。渥美半島のピュアホワイトをぜひ食べてみて下さい。

写真３：生育の揃い良好

写真2:主茎太く倒れにくい草姿

写真４：ピュアホワイトの旺盛な草姿